

2019 年度

事業報告書

自 平成 31 年 (2019) 4 月 1 日

至 令和 01 年 (2020) 3 月 31 日

公益財団法人
日本ライフセービング協会

目 次

【公益目的事業】

- < 1 > 監視救助事業
- < 2 > 資格認定事業
- < 3 > 安全・防災教育・環境保全事業
- < 4 > 競技推進事業
- < 5 > 国際交流事業
- < 6 > 広報活動事業
- < 7 > その他の事業

【その他の事業】

- < 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

備考：表記について

- ・国際ライフセービング連盟 → I L S
- ・日本ライフセービング協会 → J L A

【公益目的事業】

ライフセービングに関する公益目的事業として、海岸・プール等をはじめとする全国の水辺の事故防止に向けた安全教育、監視・救助、防災・防災教育、環境保全等を行うライフセービングの普及・啓発及び発展に関する事業を行う。

< 1 > 監視救助事業

1. 監視救助業務

(1) 監視救助事業とは、海岸や河川、プール等の水辺に海水浴客やスポーツイベント等の来客が訪れた際、その監視と救助を行う事業であるが、本協会では静岡県、東京都、和歌山県内の自治体から各海水浴場の監視救助活動業務の依頼を受けて事業を実施した。また、その他の自治体については、都道府県協会又は各クラブがその依頼を受けて事業を実施しており、本協会はそれらについては管理監督のみを行った。ただし、今後は迅速な対応が求められることなどから、都道府県協会や各クラブが事業を実施する形態に順次移行していく方針である。

	海水浴場名	地区	期間
1	熱川温泉 You 湯ビーチ	静岡県東伊豆町	7/20-8/25
2	今井浜海水浴場	静岡県河津町	7/13-9/1
3	河津浜海水浴場		7/13-8/18
4	土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/13-8/25
5	小土肥海水浴場		
6	大浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/13-9/25
7	乗浜海水浴場		
8	深田海水浴場		
9	黄金崎海水浴場		
10	浮島海水浴場		
11	田子瀬浜海水浴場	静岡県松崎町	7/13-8/18
12	松崎海水浴場		
13	岩地海水浴場		
14	石部海水浴場		
15	雲見海水浴場		
16	新島地区・第一前浜海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
17	新島地区・第二前浜海水浴場		
18	新島地区・第四前浜海水浴場		
19	新島地区・間々下浦海水浴場		
20	新島地区・若郷前浜海水浴場		
21	新島地区・羽伏浦海水浴場		7/27-8/26
22	式根島地区・泊海水浴場		
23	式根島地区・大浦海水浴場		
24	式根島地区・中の浦海水浴場		
25	式根島地区・石白川海水浴場		
26	白良浜海水浴場	和歌山県白浜町	6/30-8/31

- (2) スポーツイベント (*オープンウォータースイミングやトライアスロン、水泳等) の監視とその救助を行った。
 * 「オープンウォータースイミング」海、川、湖など、自然の水の中で行なわれる長距離の水泳競技であり、国際水泳連盟が定める競技規則のもと国際的に統一されたルールで行われ、遠泳とは異なる。OWS と略す。

事業内容	開催日	ライフセーバー参加延数	会場
東京五輪プレ大会 ボート競技	8月4日～8月11日	208	海の森競技場
東京五輪プレ大会 マラソンスイミング競技	8月8日～8月11日	34	お台場海浜公園
東京五輪プレ大会 トライアスロン競技	8月13日～8月18日	95	お台場海浜公園
東京五輪プレ大会 カヌー競技	9月9日～9月15日	105	海の森競技場
国民体育大会 (茨城県) ①オープンウォータースイミング ②トライアスロン	①9月10日～9月11日 ②9月28日～9月29日	①20 ②20	茨城県潮来市
日本トライアスロン連合 世界トライアスロンシリーズ横浜大会	5月17日～5月19日	16	横浜市山下公園
日本トライアスロン連合 日本選手権	10月6日	15	お台場海浜公園
日本マスターズ水泳協会 ジャパンマスターズ	①7月6日～7月7日 ②9月18日～9月23日 ③11月30日～12月1日	①4 ②10 ③4	①横浜国際プール ②福岡県立プール ③千葉国際プール

2. 水辺の溺水事故防止に向けた調査研究

ライフセービングレポート (全国パトロール統計) の集計および、レスキューレポート、疾病者等記録票の検証とフィードバック、水浴場調査を実施した。

当協会に加盟するライフセービングクラブが全国において監視救助活動を行った結果を集計し、それを公表することで水辺の溺水事故防止につなげる事業である。

結果は例年当協会の事業報告書により公表され、2019年度においては報告海水浴場計197か所、たずさわったライフセーバー総数は45,571人、パトロール延べ時間は332,579時間であった。

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
報告海水浴場	197	200	195	204	197
水浴客総入込数	8,289,594	9,522,415	8,524,042	11,727,383	11,260,363
レスキュー総数	2,128	2,362	1,776	2,276	3,163
Preventive Action	2,113	2,334	1,761	2,239	3,123
Emergency Care	15 (死亡7) (蘇生8) (不明0)	28 (死亡16) (蘇生11) (不明1)	15 (死亡4) (蘇生10) (不明1)	37 (死亡9) (蘇生15) (不明13)	40 (死亡16) (蘇生16) (不明8)

3. 監視救助活動の推進に向けた器材等配備支援

全国のライフセーバー及びライフセービングクラブに対して、監視救助活動で利活用する器材等の配備を行った。有償で支援を行っているが、原価及び管理経費による支出のため利益を伴う事業ではない。

(1) 監視救助用ユニフォーム等の配備支援

- ・対象：JLA 認定資格所有者
- ・内容：パトロールユニフォーム、パトロール水着等

監視救助用ユニフォーム	数量
パトロールユニフォーム長袖	209
パトロールユニフォーム半袖	497
ビーチパトロールシャツ半袖	51
プールライフセーバー半袖	13
サーフパンツ男子	520
サーフパンツ女子	186
男子水着ボクサー型 1	52
男子水着ボクサー型 2	180
男子水着ブーメラン型 1	25
男子水着ブーメラン型 2	57
女子水着トップス型 1	89
女子水着トップス型 2	22
女子水着ボクサー型 1	25
女子水着ボクサー型 2	9
女子水着ブーメラン型 1	67
女子水着ブーメラン型 2	13
ラッシュガード	84
サーフハット	40
つば付きキャップ	372
パトロールキャップ綿型	166
パトロールキャップ伸縮無型	188
パトロールキャップ伸縮有型	313

(2) 監視救助用器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：レスキューチューブ、レスキューボード、IOT 等を活用した監視救助システム

配備品	数量
レスキューボード	35 団体 68 本
レスキューチューブ	51 団体 182 本
IOT 監視救助システム（宮崎県青島海水浴場）	一式

(3) 熱中症対策用飲料水等の配備支援 ※協賛：大塚製薬工場(株)

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：飲料水、ゼリー

配備品	数量
経口補水液	57 団体 49,992 本
経口補水ゼリー	57 団体 9,972 個

< 2 > 資格認定事業

以下の資格認定講習会、更新講習会及びライフセービングサポーター講習会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施した。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

1. 資格認定講習会の開催

JLAでは、誰もが身につけるべき「自分自身を守る、溺れないためのプログラム」「もしも隣で人が倒れた場合の対処を学ぶプログラム」から、「実際に事故を未然に防ぎ、溺者を助ける救助技術」まで、水辺の悲しい事故をゼロにするための資格講習会を開催しており、それぞれのコースについての資格認定をしている。

*当該資格認定事業では、ライフセーバーを養成することを目的としていない。広く人命救助と水辺の悲しい事故の減少に資するための資格認定講習会である。

*ライフセーバーの認定についてはBLS（CPR+AED）コース及びWater Safety コースの両コースを取得し、さらに上位の知識、技能を得るための講習の受講が必要であり、不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業とは言えず、またライフセーバーの人員確保という相互扶助の面から、その他の事業（相互扶助等事業）として実施する。

・資格認定講習会及び更新講習会等の開催

以下の2種類の資格認定講習会を開催し資格の認定を行った。また、資格取得者に対して更新講習を実施した。

(1) *BLS（CPR+AED）コース

*BLS・・・Basic Life Support（一次救命処置）

心肺蘇生とAED、気道異物の除去の3つを合わせてBLSという。

*CPR・・・cardiopulmonary resuscitation（心肺蘇生法）

質の高い心肺蘇生とAED等の修得を目指し、人命救助、傷病者の「社会復帰」を目標に講習を実施する。

(2) *Water Safety コース

*水辺において自身を守ることのできる知恵や技能のこと。

水辺における活動やアクアスポーツ等の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの最も基礎となる知識と技術を備え、水辺の事故を防止することを目的とし実施する。

資格「更新」認定基準

・JLA認定の資格を有すること

・水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、JLAが同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること

■資格認定講習会及び更新講習会等の開催

資格名	開催数	資格発行数
BLSコース	128	1,798
Water safety コース	75	1,134
資格更新講習会	72	490

2. ライフセービングサポーター講習会の開催 ※日本財団助成事業

子どもの保護者や民間スポーツクラブのインストラクター、学校教員に向けた安全教室として、企業研修、学校の授業として広く一般の要望に合わせた各種安全教育プログラム「ライフセービングサポーター講習会」を実施した。プールでのウォーターセーフティやAED、応急処置などの体験ができる。

サポーター講習会	開催数	修了証発行数
B L S	79	5,420
Water Safety	86	9,117
合計	165	14,537

3. 資格認定講習会及びライフセービングサポーター講習会等の普及・促進に係る支援事業

地方開催での資格認定講習会（指導員養成、更新講習会含む）での指導員に関わる派遣旅費を支援した。また、ライフセービングサポーター講習会での実施諸経費を一部支援した。

< 3 > 安全・防災教育・環境保全事業

1. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教育支援活動

(1) 臨海学園へのライフセービング指導協力

中学生に対して、ライフセーバーを派遣してライフセービングの指導・防災教育を行った。

主催	日程	会場	参加者数
北区教育委員会 岩井臨海学園	7月19日～8月13日	岩井海岸（千葉県南房総市）	1,331

(2) 小中学校等へのライフセービング指導協力

小中学校からの依頼により児童生徒に対して、ライフセーバーを派遣してライフセービングの指導・防災教育を行った。また、海洋教育支援推進に向けたICT教育のプログラム開発を行った。

■ 小中学校等へのライフセービング指導協力

主催	日程	会場	参加者数
品川区立戸越台中学校 着衣水泳プログラム	6月15日	戸越台中学校プール（東京都品川区）	101

■ICT 教育用プログラム開発 ※日本財団助成事業

① 目的

JLA として初等中等教育における海洋教育を広く推進していくために、水辺の安全教育は必須と考える。水泳を含めた水辺教育のファンデーションプログラムとなる「安全に関する知識と技能習得」のための ICT 教育の開発を目的とした。

② 目標

2019 年度中に JLA のウォーターセーフティプログラムから、小、中学校学習指導要領に関連する事項を主に抽出し、コンテンツの制作、完成を目指した。

③ 事業の方向性

小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を行った。その上で水泳や水辺の活動に潜む危険への理解や、危機回避能力を養うための ICT 教育プログラムを軸として開発した。なお、その際は新学習指導要領との関連性に留意しながら『ROYAL LIFESAVING SOCIETY-AUSTRALIA』の E-LIFESAVING を参考にした。

④ 事業の成果物

- ・水辺の安全に関する知識と技術習得のための ICT 教育コンテンツ
- ・名称 JLA e-Lifesaving (ジエイルエー イライフセービング)
- ・URL <https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

(3) 学校教員への研修協力

教員を対象とした一次救命処置や水辺の事故防止研修会を行った。

主催	日程	会場	参加者数
足立区教育委員会 水泳事故防止研修会	6 月 7 日	千住温水プール（東京都足立区）	60

主催	日程	会場	参加者数
東京私立中学高等学校協会 教員研修会	6 月 28 日	成城学園中学校高等学校（東京都世田谷区）	15

2. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた調査研究

防災力強化事業

防災教育の推進及び公的救助機関と連携した。特に地震発生後の津波に対する備えや対策について、以下の通り連携を図った。

連携機関	連携内容	成果
気象庁	「津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会」へ担当理事を有識者として派遣	検討会が自治体向けアンケート調査、関係機関等へのヒアリング、および実証実験を実施し、【「津波フラッグ」による津波警報等の伝達に関するガイドライン】がとりまとめられた。
気象庁ホームページ 津波フラッグ解説ページ http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html		

3. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教室・研修会の開催

(1) ジュニア・ライフセービング教室の開催 ※日本財団助成事業

全国の子どもを対象にジュニア・ライフセービング教室を開催し、「自分の命は自分で守る」等の安全・防災教育を実施した。

No	開催日	主催	会場	参加者数
1	8月3日	JLA	成城学園プール（東京都）	10
2	8月9日	鹿嶋 LGT	平井海水浴場（茨城県）	50
3	8月24日	若狭和田 LSC	若狭和田ビーチ（福井県）	12
4	9月8日	屋久島 LSC	一湊海水浴場（鹿児島県）	40
5	9月21日※荒天中止	新宮 LSC	シーサイドももち海浜公園（福岡県）	中止
			合計	112

■第一三共ジュニア・ライフセービング教室 ※協賛：第一三共株式会社

No	開催日	協力クラブ	会場	参加者数
1	7月21日	愛知 LSC	内海海水浴場（愛知県）	43
2	8月3日	いわき SLSC	薄磯海水浴場（福島県）	23
3	8月24日	御宿 LSC	御宿中央海水浴場（千葉県）	44
			合計	110

(2) ジュニア・ライフセービング教室の開催に関する資器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：ニッパーボード、ジュニアテキスト、ジュニアキャップ

ジュニア・ライフセービング教室関連資器材	数量
ジュニアニッパーボード	14
ジュニアキャップ	140
ジュニアテキスト	1,235
Jr パンフレット	1,200
JLA ACADEMY パンフレット	3,000
ライフセービングサポーター修了証	14,537

(3) 青少年に対する研修会

ライフセービングを担う人材を育成するために学生（高校生等含む）を対象とした研修会や会議を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。

日程	会場	参加者数
2月29日～3月1日	国立リハビリテーションセンター（東京都）	中止

(4)「水辺の事故ゼロ」を目指し、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、溺水事故の事例検証について情報共有する研修会やライフセーバー自身のスキルアップを目的とした研修会を実施した。

■シミュレーション審査会 ※日本財団助成事業

日程	会場	参加チーム数
12月1日	若狭和田海水浴場（福井県）	3
12月8日	御宿中央海水浴場（千葉県）	8
12月15日	葉山大浜海岸（神奈川県）	13
12月22日	相良サンビーチ海水浴場（静岡県）	7
合計：参加 31 チーム、実施者 186 名、係員 116 名		

■スキルアップ研修会

日程	内容	会場	参加者数
6月30日	レスキューミーティング	蓮沼海浜公園（千葉県）	70
2月15日	サーフトレーニングクリニック	横浜海の公園（神奈川県）	10

(5)インフレーターレスキューボート（IRB）に関する消防向け教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等の開催 ※日本財団助成事業

浮遊物が多い洪水や津波・高潮などの水災害において、より多くの要救助者を運搬する機材として優位であるインフレーターレスキューボート（IRB）に関し、全国の消防を対象にした教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等を開催し、ライフセーバーと全国消防が連携することで、より多くの救助が可能な体制の構築を図った。

■IRB を用いた救助技術講習会

日程	参加地域消防	参加者数
11月16日	岡崎市中消防署本署（愛知県）	21
2月5日	横須賀市消防局（神奈川県） 葉山町消防本部（同上） 鎌倉市消防本部（同上） 逗子市消防本部（同上）	37
2月12日	松江市消防本部（島根県）	12
2月13日	西部消防局（鳥取県）	12
2月18日 2月25日	市川市消防局（千葉県）	24
2月26日 2月27日	川崎市消防局（神奈川県）	37

4. 環境保全活動

全国の水辺の清掃、また水辺を利用する一般市民に対して環境保全についての教育を行った。

■ ビーチクリーン活動

主な日程	会場	主な内容
7月1日～8月31日	各地の海水浴場等（約200カ所）	ビーチクリーン活動

■ ビーチクリーン活動及び飲酒での水難事故撲滅推進 ※協賛：サッポロホールディングス(株)

主な日程	会場	主な内容
8月1日～8月31日	① 御宿中央海水浴場（千葉県御宿町） ② 三浦海岸海水浴場（神奈川県三浦市） ③ 静波海水浴場、相良サンビーチ （静岡県牧之原市） ④ 白良浜海水浴場（和歌山県白浜町） ⑤ 若狭和田海水浴場（福井県高浜町） ⑥ 青島海水浴場（宮崎県宮崎市）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビーチクリーン活動 ・ 飲酒による水難事故の撲滅と飲酒マナーの向上 「飲んだら泳がないキャンペーン」

< 4 > 競技推進事業

ライフセービング競技会の開催

ライフセービング競技の目的は人命救助にある。実際の現場での救助の際には瞬時に必要とされる行動をとれる技術の錬磨と基礎体力が必要であり、それには日頃の救助技術等の練習、訓練、体力づくりがその基礎となる。技術の向上、持久力や基礎体力の向上には他者との競い合いが最も近道であり、結果そこで仲間と連帯感の向上、技術の再確認等がなされる。そのことが人命救助へとつながるのである。競技種目はビーチ種目、スイム種目、ボード&サーフスキー種目、オーシャンマンレース等があり、その対象もジュニア（小学生）、ユース（中学生/高校生）学生、社会人など幅広い。

1. JLA 主催競技会の開催

年間を通じてプールや海岸で競技大会を実施した（全日本選手権、全日本プール競技選手権、全日本学生選手権、全日本学生プール競技選手権、全日本種目別選手権、全日本ジュニア選手権、全日本ユース選手権、全日本マスターズ競技会）。

開催日	大会名	参加数	会場
5月18日～19日	第32回全日本プール競技選手権	53チーム 587	横浜国際プール（神奈川県）
6月8日～9日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（ビーチ）	26チーム 301	横浜海の公園（神奈川県）
6月15日～16日※荒天中止	第32回全日本種目別選手権	60チーム 617	御宿海岸（千葉県）
6月22日～23日	第12回三洋物産 インターナショナルカップ	6か国 7チーム	シーサイドもちもち（福岡県）
8月31日～9月1日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（サーフ）	32チーム 381	外浦海岸（静岡県）
9月7日	全日本 近畿地区予選会	11チーム 82	白良浜海水浴場（和歌山県）
9月8日	第19回オシャンサーフチャレンジ in 白浜	13チーム 137	白良浜海水浴場（和歌山県）
9月14日～15日	全日本 北関東地区予選会	14チーム 339	御宿海岸（千葉県）
9月14日～15日	全日本 南関東地区予選会	22チーム 495	平塚ビーチパーク（神奈川県）
9月15日～16日	全日本 東海地区予選会	12チーム 286	静波海岸（静岡県）

9月21日～22日	第34回全日本学生選手権	46チーム622	御宿海岸（千葉県）
10月12日～13日※荒天中止	第45回全日本選手権	59チーム1202	片瀬西浜海岸（神奈川県）
1月25日～26日	第11回全日本学生プール競技選手権	35チーム514	富士水泳場（静岡県）
2月15日～16日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（プール）	21チーム266	世田谷プール（東京都）

2. 選手強化等事業 ※協賛：(株)三洋物産/(株)三洋販売
ライフセービング競技における競技者の競技力強化・育成事業を実施した。

■強化合宿・研修合宿等事業

主に強化指定選手（ハイパフォーマンスチーム：以下HPT）を中心に国内または海外での強化合宿等を実施し競技力向上を図った。

日程	対象	内容
4月14日	HPT	ビーチ・オーシャン強化合宿
5月5日～6日	HPT	ビーチ強化合宿
6月2日	HPT	三洋カップ日本代表選考会
7月7日	HPT	ビーチ・オーシャン強化合宿
8月4日	HPT	アンチ・ドーピングセミナー
11月2～4日	HPT	スイム・ラン・フィジカル強化合宿
12月22～23日	HPT	プール・フィジカル・オーシャン強化合宿
1月12日	HPT	ラン・フィジカル競技強化合宿
2月2日	HPT	プール・フィジカル強化合宿
3月28～29日	HPT	プール・ビーチ・オーシャン競技強化合宿

■国際競技会等への代表選手選定及び派遣事業

主に強化指定選手を中心に国際競技会へ代表選手を派遣した。

大会名	大会期間	会場
第12回 三洋物産インターナショナルカップ	6月22日～23日	シーサイドももち（福岡県）
Italian Championships/Pool event (European Cup Open)	7月12日～14日	イタリア共和国/ローマ
International Surf Rescue Challenge (ISRC)	9月28日～10月1日	南アフリカ共和国/ダーバン
Italian Age Group Championships/Pool event	2月9日～19日	イタリア共和国/リッチョーネ

3. スポーツ教室等開催事業

小・中・高校生、学生及び一般を対象にライフセービングスポーツの楽しさと基礎的な技術の習得を通じて地域のライフセービングスポーツの普及・振興を図る予定だったが、日程調整および指導体制の編成が困難であったため実施は見送った。

4. ドーピング防止活動推進事業 ※スポーツ振興くじ助成事業

国内外のドーピング防止活動の動向を踏まえ、日本アンチ・ドーピング機構に加盟・連携し、ドーピング防止教育・啓発活動を実施した。

■アンチ・ドーピング研修会及びドーピング検査

日程	内容	参加対象	参加者数
4月14日	研修会	西浜 SLSC/合宿	12
4月21日	研修会	HPT ユース/強化合宿	12
5月18日～19日	検査	全日本プール競技選手権大会/参加選手	4 検体
6月9日	研修会	イタリア遠征日本代表選手/強化合宿	10
6月20日	研修会	三洋カップ日本代表選手	20
6月21日～23日	アウトリーチ	三洋カップ参加出場選手（海外含む）	119
7月6日	研修会	十文字高等学校/合宿（保護者）	36
7月11日	研修会	十文字高等学校/合宿（選手）	38
8月4日	研修会	HPT ユース/強化合宿	19
9月1日	研修会	若狭和田 LSC/合宿	8
9月16日	研修会	ISRC 日本代表選手/強化合宿	4
9月20日	研修会	ISRC 日本代表選手/強化合宿	1
12月8日	研修会	茅ヶ崎 LSC/合宿	13
12月15日	研修会	HPT ユース/強化合宿	3
12月28日	研修会	HPT トップ・ユース/強化合宿	6
2月15日～16日	アウトリーチ	全日本ジュニア/ユース・プール競技会/参加選手	94

< 5 > 国際交流事業

国際会議及び関係諸国への派遣

JLAはILSへの国内唯一の加盟団体として、その責務を果たす役割があり、これまでも様々な国際事業に積極的に取り組んできた。今後も水辺の事故ゼロに向け国際貢献するべくより一層の国際交流を深め、世界情勢を把握したうえで国際的な活動を推進していく。ILS主催の総会や理事会、各種専門委員会や事業にJLA役員や委員を派遣しネットワークの構築や情報収集を実施し、ILSの戦略プランの遂行に貢献した。

会議名	派遣者	日程	開催地
ILS スポーツ委員会	宮部 周作	5月21日～23日	イタリア共和国
ILS 理事会 ILSアジア環太平洋地区 理事会	相澤 千春 中川 容子	10月4日～11日	南アフリカ共和国
国際溺水事故防止会議	石川 仁憲	10月4日～11日	南アフリカ共和国
豪日戦略的パートナーシップ (オーストラリア協会)	中川 容子	2月18日	オーストラリア

- ※相澤千春；ILS 理事、ILS アジア環太平洋地区理事、JLA 国際室委員
- ※石川仁憲；ILS Rescue Commission 委員、JLA 常務理事・溺水防止救助救命本部長
- ※宮部周作；ILS Sports Commission 委員、JLA 常務理事・ライフセービングスポーツ本部長
- ※中川容子；ILS Drowning Prevention & Public Education 委員、JLA 理事・国際室長

< 6 > 広報活動事業

1. パブリシティ活動

当協会の事業を一般へ伝達・周知するため、マスメディアへのパブリシティ広報活動を行った。

取材媒体	件数
新聞/雑誌	12 社 16 回
テレビ/ラジオ	10 社 10 回
ウェブ	17 社 17 回

2. インターネット利活用による情報発信

公式ホームページや SNS を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
公式 JLA サイト ページビュー (PV)	123,753
公式 LIFESAVING サイト ページビュー (PV)	661,898
公式フェイスブック フォロワー数*	5,196
インスタグラム フォロワー数*	1,612

*は 2020/5/31 現在 それ以外は 2019/4/1～2020/3/31 数値

3. 広報資料の作成

プレスリリース等の広報資料を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
プレスリリース	9

< 7 > その他の事業

1. 関係諸団体との連携推進

当協会の理念や活動目的に賛同・協力する地方ブロック協会、都道府県協会や加盟クラブ、関連団体と積極的に連携し、外部団体や広く国民に対してライフセービングの普及・促進を図った。また、関係する官公庁や教育諸機関及びスポーツ諸団体等との積極的な連携も促進した。

会議名等	日程	内容
都道府県協会 代表者会議	5 月 25 日	19 都道府県協会の代表者との意見交換会
都道府県協会 代表者会議	10 月 27 日	19 都道府県協会の代表者との意見交換会
都道府県協会 代表者会議	12 月 7 日	次年度新規 6 都道府県協会への説明会

連携団体	主な内容
気象庁	「津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会」へ担当理事を有識者委員として派遣
海上保安庁	① 「海の安全推進本部・海の安全推進アドバイザー」として担当理事が委嘱される ② 「新たな海上安全指導員制度構築に関する委員会」へ担当理事を有識者委員として派遣
消費者庁	消費安全課より「消費者安全調査委員会専門委員」として担当理事を有識者として派遣
スポーツ庁	① スポーツ施設等安全管理講習会への JLA 指導員派遣の協力依頼 ② 水辺の安全に関する知識と技術習得のための ICT 教育コンテンツ「JLA e-Lifesaving」の情報提供（長官を表敬訪問）
日本水泳連盟	① 日本水泳連盟主催オープンウォータースイミング競技会及び国民体育大会へのセーフティーオフィサー及びライフセーバー派遣 ② 役員意見交換会
日本トライアスロン連合	日本トライアスロン連合主催競技会及び国民体育大会への安全担当員及びライフセーバー派遣
日本サーフィン連盟	① 日本サーフィン連盟主催「サーフスクール」への JLA 指導員派遣 ② 海岸利用に関する共同声明の発信
日本マスターズ水泳協会	① プールライフセービングサポーター講習会の共催（JLA 指導員派遣） ② 日本マスターズ水泳協会主催ジャパンマスターズ競技会への安全担当員及びライフセーバー派遣
日本救護救急学会	① 第 5 回学術集会の主管として運営を実施 ② JLA メディカルダイレクター 1 名を理事として派遣
病院前救護統括体制認定機構	担当役員等 3 名を派遣 ・理事、統括医師研修認定委員会委員、救急救命士研修認定委員会委員
御宿町（千葉県）	IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流事故防止の実現（導入 2 年目）
宮崎市（宮崎県）	IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」の導入（導入 1 年目）

2. JLA 認定海水浴場認証事業 ※日本財団助成事業

I L S のリスク評価指標に基づき J L A 独自の海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「J L A 認定海水浴場認証事業」を行った。

	実施箇所
全国 6 ヶ所	① 御宿中央海水浴場（千葉県） ② 湯河原海水浴場（神奈川県） ③ 静波海水浴場（静岡県） ④ 相良サンビーチ海水浴場（静岡県） ⑤ 青島海水浴場（宮崎県） ⑥ 式根島泊海水浴場（東京都）

【その他の事業】

(事業実施の背景)

人命救助、水辺の事故の減少、防止のためにはライフセービングの普及と同じく実際に人命救助を行うライフセーバーの存在が不可欠であるが、日本国内ではその数がまだまだ不足している。このような現状では、水辺の事故を防止することも、人命を救助することも困難となる。そこで、当事業では主に海、プール等で活動する認定ライフセーバーを養成する講習を開催し、正しい知識と技術をもったライフセーバーとしてその資格を認定する。認定された者は「認定ライフセーバー」あるいは「認定ライフガード」等の名称を使用し、活動することができる。

(事業の目的)

全国の水辺の事故防止、事故の減少、人命救助、水辺の安全利用の促進を図るため、認定ライフセーバー等の養成を行う。

(事業の内容)

以下のコース別の資格認定講習会、研修会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施する。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

< 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

(1) 認定ライフセーバー資格認定

資格認定は大きく以下のコースに分類されている。

- (1) サープライフセービングコース
- (2) プールライフガーディングコース
- (3) *IRB コース *Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意
- (4) Jr. エデュケーションコース

さらに最上位資格として「アシスタントインストラクター」「インストラクター」(指導員)資格がある。

すべての事業に共通して、

- 1、ウォーターセーフティ及びBLS (CPR+AED) コースの受講が完了し、両者の資格を保有していなければその上位資格である、上記各コースの資格を取得することはできない。以下上記2つの資格を「基礎資格」とする。
- 2、15歳以上でなければ資格を取得できない。

- (1) サープライフセービングコース
基礎資格を有した上で、取得できる資格は、ベーシックサーライフセーバー及びアドバンスサーライフセーバー資格である。
- (2) プールライフガーディングコース
基礎資格を有した上で、取得できる資格はプールライフガード及びアドバンスプールライフガード資格である。
- (3) IRB コース
基礎資格及びベーシックサーライフセーバーの資格を有した上で、取得できる資格はIRBクルー及びIRBドライバー資格である。
- (4) Jr. エデュケーションコース
基礎資格及びベーシックサーライフセーバー又はプールライフガードの資格を有した上で、取得できる資格はリーダー資格である。

<アシスタントインストラクター・インストラクター資格：指導員資格について>

最上位資格として

- ・ウォーターセーフティアシスタントインストラクター
- ・ウォーターセーフティインストラクター
- ・サープライフセービングアシスタントインストラクター
- ・サープライフセービングインストラクター
- ・プールライフガーディングアシスタントインストラクター
- ・プールライフガーディングインストラクター
- ・IRBアシスタントインストラクター

- ・ I R B インストラクター
- ・ ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター
- ・ ジュニアライフセービングインストラクター

の各指導員資格を取得できる。これらの資格は共通して各コースの下位資格を取得した上で実務経験等の条件を満たした者が取得できるものである。

(認定審判員養成講習会及び審判員研修会の開催)

ライフセービング競技会等で審判を行うための講習会を開催し、C級審判員の資格を認定した。さらに審判員に対する研修会を実施した。

審判員の認定については、認定審判員規程に従いこれを認定する。その他、上級審判としてS、A、B級審判員を定めている。

指導員資格更新認定基準

1. J L A 認定の指導員資格を有すること。
2. 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、J L A が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

その他の資格・審判員「更新」認定基準

1. J L A 認定の資格を有すること。
2. 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、J L A が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

■認定ライフセーバー資格認定

資格名	開催数	発行数
ベーシックサーフライフセーバー	51	729
アドバンスサーフライフセーバー	18	171
IRB クルー	4	25
IRB ドライバー	2	7
プールライフガード	16	161
アドバンスプールライフガード	7	45
リーダー	4	60
資格更新	85	746
指導員（新規）	6	29
指導員（継続）	12	316
合計	205	2,289

■BLS 指導員養成講習会 ※日本財団助成事業

日程	会場	合格者数
1月11日、12日、18日、19日	三保研修会館（静岡県静岡市）	12
1月18日、19日、25日、26日	豊成温水プール（岡山県岡山市）	6
2月7日、8日、9日、10日	ちやたんニライセンター（沖縄県北谷町）	12
2月21日、22日、23日、24日	湘南海岸公園サーフビレッジ（神奈川県藤沢市）	7
	合計	37

■サーフライフセービング指導員養成講習会 ※日本財団助成事業

日程	会場	合格者数
4月29日、30日、5月1日	静波海岸（静岡県牧之原市）	9
5月3日、4日、5日	三浦海岸（神奈川県三浦市）	7
	合計	16

■指導員研修会（指導員認定講習会） ※日本財団助成事業

日程		会場	参加者数
A 日程	2月1日	福岡市立早良市民センター（福岡県福岡市）	14
B 日程	2月11日	まりりんぎのわん（沖縄県宜野湾市）	11
C 日程	2月15日	サンエールかごしま（鹿児島県鹿児島市）	4
D 日程	2月17日	神明いきいきプラザ（東京都港区）	36
E 日程	2月22日	YIC 京都貸し教室（京都府京都市下京区）	11
F 日程	2月24日	成城学園中高校舎（東京世田谷区）	43
G 日程	2月29日	フジコミュニティセンター（愛知県名古屋市）	10
H 日程	3月1日	マッターホルン（静岡県静岡市）	15
I 日程	3月4日	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）	30
J 日程	3月8日	柏崎市民プラザ（新潟県柏崎市）	7
K 日程	3月14日	PARM-CITY 131 貸会議室（宮城県仙台市）	6
L 日程	3月15日	成城学園中高校舎（東京世田谷区）	32
M 日程	3月21日	岡山県立図書館（岡山県岡山市）	10
N 日程	3月28日	エルプラザ（北海道札幌市）	66
合計			295

■C級認定審判員養成講習会

日程		会場	合格者数
1	5月6日	大阪体育大学（大阪府）	23
2	5月11日	福岡市（福岡県）	16
3	5月12日	東海大学清水校舎（静岡県）	28
4	6月1日	神明いきいき（東京都）	17
5	6月25日～26日	国際武道大学（千葉県）	6
6	6月30日	白金台いきいき（東京都）	10
7	7月7日	南麻布いきいき（東京都）	10
8	7月14日	ありすいきいき（東京都）	10
9	8月3日	湯河原（神奈川県）	7
10	8月25日	日本体育大学（東京都）	5
11	11月2日	京都（京都府）	19
12	12月1日	豊岡いきいき（東京都）	30
13	12月7日	愛知南生涯学習センター（愛知県）	9
14	12月15日	南麻布いきいき（東京都）	23
15	1月11日	世田谷区総合運動場（東京都）	10
16	1月19日	成城学園（東京都）	26
17	2月9日	青南いきいき（東京都）	19
合計			268

■審判員研修会

日程		会場	参加者数
1	5月11日(午前の部)	百道浜海浜公園（福岡県）	14
2	5月11日(午後の部)	百道浜海浜公園（福岡県）	16
3	2月11日	三田いきいきプラザ（東京都）	10
合計			40

(以上)